

# たんぽぽ

秋田県立大曲支援学校  
せんぼく校

地域支援部報 第2号  
令和6年7月22日



## 仙北市 就学前児童に関する支援機関連携会議 学習会より 「ペアレントトレーニング『機中八策』 親子間のコミュニケーションのすすめ」

講師 こども家庭センター 主査 千葉 暁子 氏

仙北市こども家庭センターでは、「ペアレントトレーニング」の一つとして、「はっさく(機中八策)」を取り入れています。「はっさく」は、ほっこりあたたかいコミュニケーションを身に付けるためのトレーニングです。安心できる信頼関係は親子関係の土台になります。「オレンジカード」を組み合わせ、あたたかいコミュニケーションをとることを覚えられるように、子育てに不安を感じている方や希望者に、全4回の練習会を実施しています。

「オレンジカード」は、伝わりやすく、分かりやすく、非暴力的なコミュニケーションです。これにより、子どもは嬉しい体験を積み重ね、自分で考え行動できる子どもになります。反対に「ブルーカード」は、伝わりにくく、暴力的なコミュニケーションです。これにより、子どもはストレスから頭の中がパニックになり、反射的に嘘をついてしまいます。



### オレンジカード

- ほ ほめる・認める
- ま 待つ
- れ 練習する
- か 代わりにする行動を示す
- が 環境づくり
- や 約束する
- き 気持ちに理解を示す
- を 落ち着く

### ブルーカード

- ひ 否定
- ど 怒鳴る・たたく
- い 嫌みを言う
- お 脅す
- と 問う、聞く、考えさせる
- ぎ 疑問形
- ば 罰を与える
- なし なじる(人格否定)



### 「オレンジカード」を組み合わせた対応の例

#### 「買い物に行って、お菓子が欲しいと泣き叫んだ」場合

- を 落ち着く →深呼吸する
- ま 待つ →「ここに座って」と落ち着くまで待つ
- が 環境作り →穏やかに近づいて
- き 気持ちに理解を示す →「お菓子、欲しいよね」
- か 代替りの行動を示す →「今日は予定してなかったから買えないけど、週末買おう」
- や 約束する →「一つだけだよ、いい？」 子「分かった」
- れ 練習する →「じゃ、今からどうする？」 子「今日は買わない。帰る。」
- ほ ほめる・認める →「えらいね。分かってくれて嬉しいな。週末また来ようね」

園や学校の先生から「気持ちの切り替え」が難しい園児児童生徒への対応について相談されることがあります。今回は、小学部3年、生活単元学習の授業での対応例について紹介します。

○単元名：わくわく探検隊①～わくわくはなびシアター はなびだ、どん！～

○学習活動：お花紙をちぎり、好きな花火型の台紙に貼り付ける。

【先生の対応例】

①先生（T1）は児童が製作活動を始める前に、活動時間（20分）を言葉で伝え、残り時間をモニターに表示する。

②活動終了5分前に「あと、5分です」「そろそろ花火シアター（次の活動）が開演します」と予告する。

③児童の活動状況を見ながら「できた人から、片付けてください」と伝える。

④タイマーが鳴り「おしまいです」と伝え、活動場所を机から黒板前に変える。

児童は好きな色のお花紙を選んで、ちぎって、台紙に貼り付けて自分なりの花火を表現することに夢中になって取り組んでいました。そのようなときに急に「終わり」と言われてもすぐに気持ちを切り替えることは大人でも難しいものです。活動前、活動中に予告したり、次の活動に移るためのきっかけを準備したりすることで、児童は納得して次の活動に取り掛かることができます。本人が納得するためには、どのような場面設定や教師の支援が必要なのか、または、うまくいっている他の場面を探し、どうしてうまくいっているのかを検討することも大切です。

「特別支援学校体験研修」をやってみませんか？

学校の先生方であれば、誰でも、授業参加、授業づくり等の体験的な研修を行うことができます。日時は相談に応じます。詳細については「令和6年度 特別支援教育の研修・相談案内」をご覧ください。

地域の学校（園）等から、「せんぼく校センター的機能に関するアンケート」に、たくさんご返答いただきありがとうございました。いつでもお問合せください。



秋田県立大曲支援学校せんぼく校

〒014-0372 仙北市角館町小館77番地2

TEL 0187-42-8568

FAX 0187-42-8569

メールアドレス senboku-s@akita-pref.ed.jp

副校長：阿部 裕子

教育専門監：大川 康博（大曲支援学校）

地域支援部：佐々木 奈織